

小樽市 「歴史的資源の観光資源化事業」

観光ビジョンコンセプトシート

2017年3月30日

～Re-Market City Otaru～ ReMaCiO構想

港湾運河を観光運河として、運搬鉄道を散策鉄道として活用し、また百数十軒の歴史的建造物を再利用してきた小樽。その手法は小樽の観光まちづくりを牽引してきた。再市場都市小樽は、そこに住む人、小樽が好きで移り住んだ人に第二の人生や新しいライフワークを創出する。

① 土壌

- 港湾運河→観光運河
- 運搬鉄道→散策鉄道
- 歴史的建造物→観光施設（飲食店、ホール、ミュージアム等）
- レトロな乗物→観光アミューズメント（人力車、蒸気機関車、屋形船等）
- 定年・移住→第二の人生（観光ガイド、観光関連起業）



歴史の再活用は小樽独自のまちづくり手法



② 概略

- 欧米から小樽に相応しい中古品を輸入 (貿易・海運)
- 第三埠頭や北運河に集積 (小売・卸売)



新商品開発研究・国際交流



③ 目的

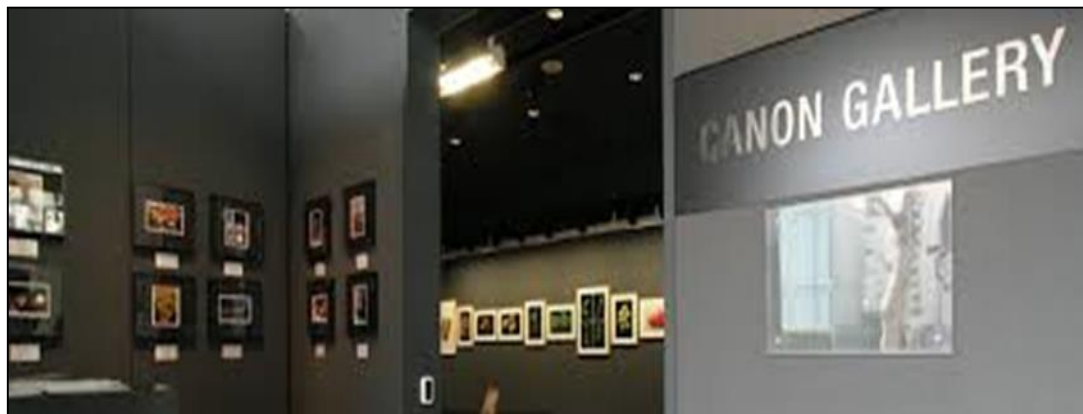
- 「もったいない」思想
- ↓
- 地球環境維持・平和な国際交流を世界に発信
- ↓
- 21世紀型「世界平和の見本都市」を創造 (先進国の義務)
- ↓
- 良質で大量の中古品をヒント



新商品を創造するCreative都市

④ 構図

- 第三埠頭→世界の骨董品
- 北運河→世界の衣類と雑貨の中古品
- 手宮線沿線→小樽的建築様式で風景を創造 + 国際交流施設集積 (カフェ、レストラン、ギャラリー、ホール、ライブラリー、ライブハウス)



⑤ 政治

【特区設置の働きかけ】

- もったいない特区：中古品輸入関税の緩和・撤廃
- みんなの特区：ビザや滞在期間の緩和
- ようこそ特区：第三埠頭、北運河、手宮線での売上げに課税 (= 観光税)

小樽観光ビジョン① 再市場都市小樽(レガシー都市)

⑥ 仕込

- 小樽商社機構：買付と卸先開発、客船を含む誘致促進
- 小樽小売機構：小樽市内外資本の誘致と調整
- 小樽修繕機構：中古品の修繕技術者の集積と向上
- 小樽市場機構：第三埠頭、北運河、手宮線のディベロップメント
- 小樽交流機構：通訳ソフト、通訳センター、交流マナーのインストール
- 小樽情報機構：上記すべての機構の情報センターおよびデザインと販促管理
- 国際誘致機構：アジアを核としたインバウンド誘致
- 国際宅配機構：観光客が購入した大型品の国際宅配
- 特区管理機構：特区制度の管理
- 特区税込機構：売上げ一人一日100円徴収管理（例）
- 観光底上機構：既存観光施設との有機的調整および販促調整機能

⑦ 段階

- シンポジウムやイベントによる世論醸造
↓
- 行政と議会による方向性承認と予算獲得
↓
- 調査と中長期計画
↓
- 国・道への特区働きかけ
↓
- 仕込み組織の段階的立ち上げ
↓
- GO!

⑧ 具体例 (今すぐできること)

【シンポジウム】

再市場都市小樽構想 (リマシオ構想) シンポジウム

【イベント】

北運河会場で北海道骨董品組合やセカンドストリートなどの協力を仰ぎ、市内の関連業界の参加を基本に、インバウンドが最も多い時期に、仮称「小樽再市場都市」イベントを開催。

【モニターツアー】

「小樽オルゴール堂」(社屋のオルゴール販売) →「北一硝子三号館」(石造倉庫の硝子ホール) →「くぼ家」(商家で硝子の器とスイーツ) →「えびす屋」(人力車で北運河へ案内付で移動) →「小樽再市場都市」イベント



小樽観光ビジョン① 再市場都市小樽(レガシー都市)

タイトル	小樽の世界観を味わう 国指定の重要文化財での ライブコンサート
------	---------------------------------------

背景	
<ul style="list-style-type: none"> ・海外でも歴史的建造物やミュージアムの中でコンサートを行う等新たな楽しみ方がコラボレーションが流行している。 ・観客も歴史的建造物の中で歴史を感じながら音楽に耳を傾ける特別な世界観を味わうことができる。 <p>参考: 札幌時計台では毎日音楽コンサートを実施</p>	

ターゲット	外国人観光客 道内観光客・道外観光客 札幌市民・小樽市民
属性	韓国・台湾・香港などアジア圏の男女 日本在住30～60代の映画・音楽好き男女 首都圏在住30～40音楽好き男女
実施者	協賛スポンサー およびNPOとの連携
実施場所	小樽運河・北運河周辺エリア

●企画内容

旧日本郵船(株)小樽支店でのコンサートは、特別な臨場感を味わえる。目で耳で味わう歴史的建造物を通じて、これまでとは違う小樽の夜観光を提供していく。

企画として映画「LoveLetter」の世界を体験するコースを提案



●イメージ
(ラブレターナイトコースの場合)

【1日目】

- ・19:00～ オープン
- ・19:30～ コンサート(「Love Letter」ナイト)
- ・20:30～ GOLDSTONEにて夕食会
- ・22:00 終了(ホテルへ)

【2日目】

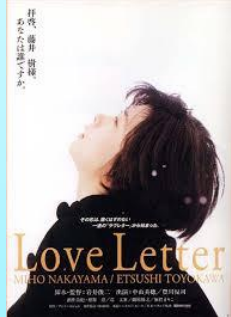
- ・10:00～12:00

「Love Letter」ロケ地巡り・ガラス工芸体験

・解散

@20,000円

※宿泊費・食費・体験料込



●メリット

- ・小樽市民と観光客の交流の場が創出できる。
- ・歴史的建造物を活用できる。
- ・テーマ・ストーリー性をもった展開が可能。
- ・音楽好きの人だけではなく、様々なテーマで実施することによって幅広い層を取り込むことができる。



～Museum-Library City Otaru～ MuLiCiO構想

近年ことりに代表される私設ミュージアムが誕生した小樽。今後のミュージアムゾーンの形成を予感させる。社会教育都市を実現させる様々な公設ミュージアムに加え、スイーツから水産加工、金属加工に至るまで小樽の文化ともいえる「ものづくり」をテーマとした私設ミュージアムの設立を促進する。

① 土壌

- 公的ミュージアム：総合博物館、美術館、文学館、金融資料館
- 私設ミュージアム：小樽芸術村、ヴェネツィア美術館、森ヒロコ美術館、ギャラリー蔵、小樽オルゴール堂二号館、小樽歴史館
(もったいない博物館、スキー資料館、北のウォール街博物館)



私設ミュージアムの土壌と展望



小樽観光ビジョン② ミュージアム都市小樽

② 概略

- 私設ミュージアムの設立促進
- ↓
- ものづくり、菓子、商店街など
- ↓
- 商品開発研究



③ 目的

- 名所旧跡観光
- ↓
- 多様なツーリズム
- ↓
- 蘊蓄観光（心豊かな観光をしながら、観光客自らの自己発見の場）
- ↓
- スタディツーリズム

小樽観光ビジョン② ミュージアム都市小樽

④ 構図

•私設ミュージアムの他に公設もしくはNPO型で下記のミュージアムの設置を促進する。
 場所は港周辺とする。

【公設ミュージアム】

- ①小樽運河保存運動ミュージアム
- ②小樽歴史的建造物再利用ミュージアム
- ③小樽港文化ミュージアム
- ④小樽商人ミュージアム
- ⑤小樽偉人ミュージアム
- ⑥小樽デザインミュージアム

【私設ミュージアム】

候補・・・新倉屋、館、政寿司、日本橋、まちの寿司、大和家、つくし牧田、かま栄、あまとう、光合金、北海道水道機材、田中酒造、北海道ワイン、ミルクプラント、一番、初代、藪半、米華堂、小樽ビール、西川、利尻屋みのや、堀内水産、カネ丁鍛冶など

⑤ 方法

【支出】

- 開設費
- 商品開発費
- 宣伝費

【収入】

- 入館料
- ミュージアムグッズの販売
- イベント収入

⑥ 政治

【特区設置の働きかけ】

- ミュージアム特区：調査費や研究費の支援

⑦ 仕込

「小樽運河保存運動ミュージアム」

- 作成物：資料収集、解説マニュアル、パネル、ディスプレイ、看板、照明
- 施設案：小樽運河公園旧日本石油株式会社倉庫
※現在小樽市港湾部管理 5月～10月末 9：00～17：00（施設）開放
- 運営法：小樽ガイドクラブ、おもてなしボランティアの会、おたる案内人などの候補者からガイドを選定し、低額ガイドを依頼
- 経営法：
イニシャルコスト→約200万円の補助金（国・道・市・その他財団）
ランニングコスト→入館料100円、協賛金

「私設ミュージアム推進」

- NPO法人歴史文化研究所
- NPO法人小樽民家再生プロジェクト

⑧ 具体例 (今すぐできること)

【小樽ミュージアム都市シンポジウム】

→小樽運河保存運動の構想のレクチャーとパネルディスカッションを通じ、それを肉付けするシンポジウムを開催する。

【モニターツアー】

(コース案)

「もったいない博物館」→「スキー博物館」→「ギャラリー蔵」→「小樽オルゴール堂」
→「北一硝子三号館」→「ヴェネツィア美術館」→「小樽歴史館」→「金融資料館」
→「文学館」→「美術館」→「小樽芸術村」→「小樽市総合博物館運河館」
→「花ごころ」(意見交換会)



小樽観光ビジョン② ミュージアム都市小樽

タイトル	OTARU SHARE BASE.
------	--------------------------

背景

- ・全国でこうしたシェアスペースを活用したまちづくりの取り組みが進んでいる。
- (例) ONOMICHI SHARE(オノミチシェア)
- ・こうした取り組みが若い世代の移住・定住促進につながっている。
- ・「ものづくり」に代表される小樽の産業の発信が可能。
- ・小樽の作家の作品が一同に会するギャラリーがない。

ターゲット	道外観光客・道内観光客 移住希望者
属性	次世代を担う若いクリエイターやアーティスト PC1つで仕事ができる人
実施者	NPOとの連携・雑貨作家組合(ガラス・革・陶器・・) メーカーズベース
実施場所	小樽市内 (運河沿いの倉庫)

●企画内容

- ・小樽の歴史的建造物を有効活用し、会員制ワークフロア作る。
- ・次世代を担う若いクリエイターやアーティストが自由に新しい視点で表現活動ができる拠点を確保し、小樽が支援することで、新しい感性を小樽に持ち込み、将来的には若い世代の移住定住へとつなげる。
- ・「クリエイター」×「小樽の地域資源」のコラボによる新しい情報発信、商品開発、ブランディングにつながる



●メリット

- ・シェアスペースのためクリエイター、アーティスト同士の交流により刺激が生まれ、創造性がより高まる。
- ・従来のARTではなく、新しい若者の感性による小樽流のARTが生み出される。(若者の活躍の場)
- 若者の自由な表現活動の支援を小樽全体でおこなうことで若者の移住や定住促進へとつながる。
- ・大きさ・重さ・形・音などを気にせずモノ作りや音楽活動に没頭できる。
- ・カフェ運営など、クリエイターの提案を採用してその場でトライアルできる仕組みにより、実践的なビジネスの場が提供できる。
- ・小樽作家の発信(常時新しい作品を発信可・売上にもつなげる)
- ・ワークショップ開催により市民との交流が促進される。
- ・小樽軟石などの資源を活用したアートのもちづくりも可

～District Creative Tourism City～ DiCToC構想

今や小樽の冬の名物になった「小樽雪あかりの路」。これは小樽における着地型観光プログラムの出発点であった。さらなる小樽ファンを増やすためにも、今後はこれをオール小樽で展開すべく、「小樽DMO実行委員会（仮称）」を発足させ着地型商品の検討をはじめめる。

① 土壌

- 小樽観光誘致促進協議会→小樽雪あかりの路
- 小樽市教育旅行誘致促進実行委員会→学習プログラム



小樽観光ビジョン③ 着地型観光都市小樽

② 概略

- 発地型：旅行会社が企画する目玉的観光商品
- 着地型：観光地域が企画する深掘的観光商品



観光ブランディング

(まちづくりとの連携、リピーターの定着、小樽ライフスタイルの推進)

③ 目的

- 「小樽らしい」観光振興
(リピーターの拡大と定着、小樽ファンの普及、コミュニティ参加、移住・起業の促進)



- 文化的・経済的自立を図り奥深い観光基幹産業を目指す。

④ 目的

「小樽DMO実行委員会（仮称）」（オール小樽で着地型観光商品プロジェクトを推進）



- 小樽市：着地型観光プロジェクト促進を基本とした管理と調整
- 小樽観光協会：着地型観光プロジェクト促進を基本とした情報発信と収集
- NPO法人OBM：小樽観光戦略と着地型観光プロジェクトの管理と調整
- その他組織
 - ①NPO法人歴史文化研究所：歴史的観光商品開発
 - ②NPO法人小樽民家再生プロジェクト：民家再生型商品開発
 - ③小樽市教育旅行誘致促進実行委員会：学習プログラム開発
 - ④おたる案内人マイスター：ガイド付き商品開発
 - ⑤旅行会社：小樽着地型観光商品普及

⑤ 方法

- 第一段階：小樽DMO実行委員会の立ち上げ（小樽市・小樽観光協会・OBM）
↓
- 第二段階：着地型観光商品開発（各組織）
↓
- 第三段階：旅行会社やネットでの販路開拓整備
↓
- 第四段階：小樽DMO自主財源の確保と条例制定
↓
- 第五段階：小樽DMO認定と補助金申請
↓
- 第六段階：ポータルサイト着地型観光プログラム開発

⑥ 政治

- 国・道・市の議会議員との連携を模索

⑦ 具体例 (今すぐできること)

【あの小樽でしか体験できないトツテオキのモニターツアー】

特別体験バージョン 約6時間コース

- ①小樽「印」探索と「自分印」印鑑作成
- ②国指定重要文化財旧日本郵船で堪能するJAZZコンサート
- ③3億円の音響を持つGold Stoneで堪能するOldies Swing
- ④ライフスタイル・ファッションショー
- ⑤夕食とモニター意見収集



小樽観光ビジョン③ 着地型観光都市小樽

タイトル	小樽運河夕涼みビアガーデン
------	---------------

ターゲット	外国人観光客 道内観光客 地域住民
属性	札幌圏在住のお酒好きな男女 日本在住30～60代男女 首都圏在住30～40代男女 小樽に住む住民
実施者	(仮称)水辺のビアガーデン実行委員会 ※連携先: 鱗友朝市、漁協関係者、ガラス関係者、およびNPOとの連携
実施場所	小樽北運河エリア

背景
<ul style="list-style-type: none"> ・小樽のアイデンティティであり、人気観光地である小樽運河や北運河をメインに活用 ・夏季ビアガーデン参加者の増加 ・世界の観光先進都市が水辺空間の活用を積極的に行っている。 <p>例: シンガポールクラークキーや京都の川床棧敷席など</p>

●企画内容
あの有名な小樽運河を目の前にビアガーデンを愉しむ試み。「運河」といえば、たくさんの船が行き交う場所。近くの漁港でとれた新鮮な酒の肴と冷えたビールを載せて、小樽伝統の「はしけ船」や小型船が運河を行き交う。夕暮れ時には運河と停泊する船にガラスや浮き球から灯りがともり、幻想的な北運河を演出。札幌の大通りとは一味違った「小樽らしい」水辺での夕涼みが体験できる。観光客のみならず地域住民からも愛される「小樽運河」へ。



●メリット

- ・夏季の夕夜間に集客が見込める
- ・運河をただ眺めるだけではなく、運河で稼ぐ新たなビジネスモデルの創出によるイノベーション
- ・小樽の地域資源である日本酒、ワイン、地ビールの認知度と売上アップ (小樽ビール・田中酒造・小樽ワイン)
- ・市民と観光客との交流の創出
- ・小樽市民による小樽運河の再認識
- ・札幌にはない水辺環境を生かした夕涼みができる。
- ・ファッションや音楽、創作料理など様々な文化との融合によりイベントが発展していく可能性。

小樽観光ビジョン③ 着地型観光都市小樽

タイトル	せっかくクルーズツアー
------	-------------

背景	
<p>・小樽は国内外の大型客船が寄港している。 クルーズ旅行に興味はあるが、料金も高額のため申込までハードルが高いという声もある。 クルーズ旅行に興味のある世代は定年退職後の富裕層夫婦が多く経済効果が高い。</p>	

ターゲット	道内観光客・道外観光客 小樽市民
属性	クルーズ旅行に興味のある60代の夫婦 小・中学生の子供がいる40代ファミリー 船に興味のあるマニア層
実施者	商船会社・旅行会社 およびNPOとの連携
実施場所	小樽港周辺

●企画内容

小樽へのクルーズ船寄港日限定のデイプラン。

これからクルーズにチャレンジしたいご夫婦向けに船内見学会とクルーズ説明会、本来であればクルーズ乗船客だけが楽しめる豪華ランチコースを特別に体験。

またファミリー向けには船の中での簡単な職業体験や、タグボートへの乗船体験も計画。目の前に停まる大型客船を力強く押す姿を目の前で見ることができる。最後は船員食堂にて船乗りの気分で「まかない飯」を体験。札幌に一番近いクルーズ寄港地小樽でしかできないツアー。



●メリット

- ・豪華客船が寄港するという港町小樽のイメージやブランディングを向上させる。
- ・ホンモノの船のライフスタイルを手ごろな料金と短時間で体験でき、クルーズ旅行への誘客を促進できる。
- ・普段できない体験を子供にさせることが子供の成長につながる。

小樽観光ビジョン③ 着地型観光都市小樽

タイトル	小樽時空旅行
------	--------

背景

技術の進歩により近年VR(バーチャルリアリティ)を駆使した観光振興が全国でも進んでいる。

小樽には運河をはじめ、銀行街に代表される建築物、そして歴史的な建築物も多く残る。今回の調査を通じ、小樽最盛期の写真資料が数多く収集されたが、かつての賑わいや街並みを知らない世代も増えており、観光ルートについてもマンネリ化が著しい。

それらを最先端の技術と融合させ、有効活用することで小樽の新しい観光素材の発掘をはかる。

ターゲット	外国人観光客 道外観光客 道内観光客・小樽市民(社会科見学)
属性	歴史好きの60代の観光客 新しいもの好きの20代 クルーズ船乗船客(寄港地観光)
実施者	旅行会社(制作会社との協力)、小樽観光案内人 およびNPOとの連携
実施場所	小樽市内 (手宮線跡・色内大通り・銀行街・小樽運河)

●企画内容

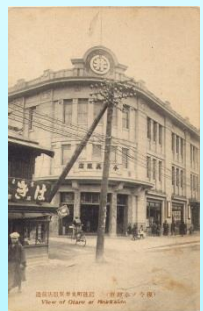
北前船全盛期の賑わいと人情ある小樽の景色・街並みを膨大な写真資料をもとにVR映像として再現。バスに乗りながら、「運河クルーズ」に乗りながら、さらには人力車に揺られながら・・・、様々なシーンで小樽の街並みの今と昔を体感。この時代だからこそできる、新感覚の歴史探訪。

●イメージ

【バスプランの場合】

- ・16:00 南小樽駅出発
- ・小樽市内のVRスポット(仮)をめぐる
「手宮線跡」、「小樽運河」、
「小樽八景」、「色内大通り」など
- ・19:00 天狗山
- ・20:00 終了

⑤5,000円(想定) ※別途製作費



●メリット

- ・小樽に残る膨大な写真資料や映像を後世に残る形で映像化することでより多くの人に見てもらうことが可能となる。
- ・これまでのマンネリ化した観光ルートではない新しい小樽の魅力を創出できる。
- ・小樽の歴史が凝縮されているため、教育現場への活用も可能
- ・幅広い世代に訴求できる。



小樽観光ビジョン③ 着地型観光都市小樽

タイトル	季節・時間限定！！ 「旬感ツアー」
------	------------------------------

背景	
<ul style="list-style-type: none"> ・近年全国各地で、地域にとっては「当たり前」な観光素材へスポットライトがあたってきている。 ・観光客の動向として、その地域にしかない珍しいもの、地域住民との交流、その土地でしかできない体験などを求める傾向がある。 	

ターゲット	道内観光客 道外観光客・小樽市民
属性	テーマ性のある旅行に興味のある60代の夫婦 小・中学生の子供がいる40代ファミリー
実施者	旅行会社・漁港関係者 およびNPOとの連携
実施場所	・祝津地区・高島地区 ・小樽運河周辺・天狗山

●企画内容
地元人には当たり前の小樽の「旬」を五感で味わうツアー。時期・時間などにも拘り、まさに小樽の「美味しい・素敵な」瞬間を体感いただく。

- イメージ**
- ・6:30 市内ホテル出発
 - ・7:00～ 祝津港・高津地区を見学
(時期により「ニシン」、「イカ」、「ウニ」、「ホタテ」などのテーマで実施)
 - ・7:30～ 港近く・市場での朝食
 - ・8:30～ 鯨番屋にて祝津たなげ会との交流
 - ・10:00 市内ホテル到着
- @5,000円(想定) + 宿泊費



- メリット**
- ・地元ならではの魅力の再発見を通じて、今までになかった「小樽」のイメージを醸成。
 - ・実施を早朝とすることで小樽への宿泊を促進

小樽観光ビジョン③ 着地型観光都市小樽

タイトル	ノスタルジックタクシー ～昭和の小樽を旅する夜～
------	-----------------------------

背景	
<ul style="list-style-type: none"> ・今までのように観光施設や立ち寄り地をただ周遊するといった旅行だけでは、観光客を獲得できなくなっている。 ・その土地の人々との交流により、生活や文化、歴史、人々のマインドを知り、行ってみたい、住んでみたいと思ってもらうことで、その土地の「ファン」を獲得していくことが求められている。 	

ターゲット	外国人観光客 道外観光客 道内観光客
属性	小樽のファン層
実施者	旅行会社・タクシー会社 およびNPOとの連携
実施場所	小樽市内

●企画内容

小樽の隠れた「価値」をテーマ毎にコース設定。「おたる観光案内人」のタクシードライバーの観光解説とともに、自分だけの「小樽」を満喫いただく。

●イメージ

<小樽っ子の過ごし方～交流夜編～>

- ・16:00 小樽駅発
- ・16:15～ 市内銭湯入浴
- ・17:20～ 田中酒造見学
- ・18:00～ 夕食(屋台村)
- ・19:30～ 純喫茶「光」でコーヒー
- ・20:30 小樽駅着
@6,000円(想定)



●メリット

- ・小樽に精通したタクシードライバーとの【交流】によって、通常の市内観光ではわからない小樽の人々の暮らしそのものが観光素材になる。
- ・生活に直結した観光ルート の提案によって「小樽ファン」層の拡大につながる。

～Interaction City Otaru～ IC構想

小樽の歴史的な発展には常に全国各地からの移民交流が土台となってきた。またそうした歴史的環境を現代人が生かし続けている独自の土壌もある。小樽に来れば「人に会う観光」、人間交流観光ができる。小樽内外の様々なジャンルの人材との交流が、地域連携、経済連携、文化連携などを促進し、世界に誇る交流都市となる。

① 背景

- 人間の機能や智恵や技術・物やシステム→進化
- 人間関係→退化



21世紀こそ、平和で人道を基本にした人間関係を



② 土壌

- 小樽の歴史的発展→全国各地からの移民交流が土壌
- 遺産である歴史的環境を現代人が生かしている
(過去と現代人の交流)



小樽は交流によって栄え、交流によって観光を育成しようとする土壌



③ 概略

- ① 交流媒介観光：おたる案内人を通して深堀観光をしよう



おたる案内人→おたる交流人

- ② 人間交流観光：おもしろい人に会いに行こう



「おもしろい発想」「画期的な実績」「ユニークなビジネスモデル」
「新たなライフワーク」「新たなライフスタイル」「しくじり逸話」

④ 目的

- ビジョン成功→天の時・地の利・人の和
 - 人の和（社会関係資本）→キーマンとその関係
- ↓
- 交流環境 + 交流仕掛 = ビジョン誘導



⑤ 構図

「おたる交流人」を通して「おもしろい人」に会いに行こう

⑥ 方法

「小樽おもしろ人間バンク」

↓
様々な施設を交流会場として解放し、安価な交流報酬を設定して維持

⑦ 政治

【特区設置の働きかけ】

- 交流特区：平和を推進し、地球環境を維持する地方創生プロジェクトによる交流を支援

小樽観光ビジョン④ 交流都市小樽

⑧ 仕込

① 小樽おもしろ人間バンク（候補者案）

- 小川原格氏：小樽運河保存運動のリーダー、観光カリスマ
- 工藤竜男氏：現代の奇跡、蒸気時計誘致やメルヘン交差点命名
- 濱谷 均氏：ドミニカ移住体験とドミニカ珈琲普及
- 山口 保氏：小樽のまちづくり運動創始者
- 簗谷 修氏：諧謔的ビジネスと「これが小樽ですか」
- 竹内勝治氏：小樽の石蔵研究者
- 石川直章氏：小樽市総合博物館館長
- 久末智章氏：小樽の硝子中興の祖
- 工藤左千夫氏：児童文学ファンタジー大賞創設者
- 佐々木一夫氏：小樽のまちづくり運動牽引者、歴史的建造物再利用嚆矢
- 須田 純氏：戦場カメラマン体験と北海道JAZZ創始者
- 土屋周三氏：元小樽市総合博物館館長、北前船研究会主宰
- 新倉吉晴氏：小樽の菓子業史
- 渡辺真吾氏：小樽歴史年表執筆者
- 野瀬栄進氏：JAZZピアノ奏者
- BIGZAM氏：Hip-hopラッパー
- 藤森五月氏：小樽伝統文化の会創始者
- 笹原 馨氏：小樽ジャーナル記者
- 北村猪之助氏：小樽の語り部
- 田中一良氏：小樽の酒造史

* 基本的には「会いに行く」こととし、営業者の場合は会費として飲食や買い物をする。またフリーランスの場合は会場を設定し一人700円を支払う。

⑧ 仕込

② 通訳および翻訳ソフトの整備

- 外国人の場合は市内の通訳もしくは添乗の通訳を通す
- (通訳料は旅行者負担)

③ 交流人の整備

- おたる案内人マイスターおよび一級者の中から交流人志望を集い、一定のレクチャーを行い、データ登録をする。

④ 交流拠点の設置

- 基本的にはホテル宿泊者を対象とし、各ルームに「交流観光PRチラシ」を配布し、ホテルのバンケットもしくはレストラン等を会場に売上げに貢献。ハンドリングはホテルのフロントが行う。
- 登録交流人から都合の良い会員が来場（基本的に夜間）し、簡単な小樽観光の説明を行い、様々な質問を受け、観光客側の情報も引き出す。個人的な関係を築きメルトモやラインにて情報交換できるようにする。ガイド料は観光客一人500円とする。

⑤ 運営方法

- 交流人事業会→NPO法人歴史文化研究所
- ホテル→歴文研から一定のレクチャーをする

⑨ 具体例 (今すぐできること)

【小樽・人間観光&交流観光モニターツアー】

① キャスト

- 交流人：石井伸和（おたる案内人講師、『小樽學』発行）
- おもしろ人間：石川直章氏（小樽市総合博物館館長）
- おもしろ人間：小川原格氏（樽運河保存運動のリーダー、観光カリスマ）

② コース

- 第三埠頭（解説）→移民と民衆交流
- 小樽運河（解説）→多様な出身移民が物流を支えた人間関係
- 銀行街（解説）→金融ベンチマークと商人事業性評価
- 小樽市総合博物館運河館→石川氏のガイドと交流
- 藪半→夕食と小川原氏との交流

③ 条件

- 時期：6月or 9月
- 時間：5時間（14：00～19：00）
- 集合：小樽運河プラザから徒歩でコース巡り
- 経費：ガイド1,500円、入館料300円、食費2,000円（飲物別）/一人
- 外国人の場合は市内の通訳もしくは添乗の通訳をアサインする

小樽観光ビジョン④ 交流都市小樽

タイトル	RETRO OTARU WEDDING PHOTO TOUR
------	---

背景	
<ul style="list-style-type: none"> ・近年ホテルでのありきたりな結婚式よりも、オリジナル性の高いアットホームなウェディングが求められている。 ・海外からのロケーションフォトウェディング参加者が増加している。 ・また、道内でリーガルウェディングをする外国人観光客も存在 <ul style="list-style-type: none"> ※小樽市へのリーガルウェディング届出実績 <ul style="list-style-type: none"> ・H26年度 国籍:中国(香港特別区)2件 ・H27年度 国籍:中国(香港特別区)2件 <p>※【リーガル ウェディング】 海外で現地の民法に則って結婚の手続きを行うことを、リーガルウェディングといいます。現地の役所に婚姻の記録が残り、法的な効力があるものです。近年、香港や台湾などの方が日本においてリーガルウェディングを行っています</p>	

ターゲット	結婚予定のカップル 再婚カップル 外国人観光客
属性	香港在住25～30代男女 日本在住25～40代男女 60代シニア世代バウリニューアル婚
実施者	ウェディング会社・観光関連事業者・旅行会社
実施場所	例:「旧日本郵船小樽支店」、「旧寿原亭」、「和光荘」、「海陽亭」、「旧青山別邸」、「夢二亭」、「運河プラザ三番庫」、「北一ホール」、「小樽バイン」、「小樽無尽」、「旧第四十七銀行小樽支店」、「旧三井銀行小樽支店」、「花ごころ(旧安田銀行)」

●企画内容

小樽の歴史的建造物を活用し、オリジナルの結婚式を行う。挙式は小樽の歴史的建造物内で行い、披露宴はホテルや近隣レストランなども選択できるようにする。

小樽の街並みを見ながら人力車で会場まで移動するなど小樽ならではのオリジナル企画も運動させる。

ロケーションフォトウェディングの人気に合わせて、小樽全体として取り組みを行う。

●イメージ



●メリット

- ・記念日に来るリピーター創出
- ・国内客であれば複数での集客が可能
- ・1日1組など限定した展開も可能
- ・小樽の宿泊者の増加
- ・小樽のレトロなイメージに合ったオリジナルウェディングが可能
- ・ウェディングが盛んな町として、小樽に来れば幸せになれるというイメージ付けができる。
- ・ロケーションフォトウェディングの参加者を通じ、小樽の魅力が世界各地へ拡散する。

小樽観光ビジョン⑤ アニメ都市小樽

～Animation Dream City Otaru～ ADCO構想

子供時代に形成される人格は、アニメや漫画が大きく影響していることも多い。そしてこの文化は日本独自と
 いてもいい先進分野であり、世界中で親しまれ多大な影響を与えている。ファンタジー、シュール、ドリームと
 いったキーワードは小樽にも通じるものがある。子供たちに夢を与え、世界に通じる人格形成の教育を目的と
 した「子供観光」の世界を創造する。

① 背景

- アニメや漫画→人格形成に大きく影響
- 日本独自の文化



教育効果大



② 土壌

- アニメ
↓
- ファンタジー
↓
- ビジター動機



③ 概略

- アニメ・ミュージアム
↓
- テーマ：「世界平和」「環境維持」「社会貢献」「自己覚醒」（情報発信、イベント開催）
↓
- 世界中から子供が集い「夢や志」を育む働きかけを行う。
（心に国境はなく、国境に文化が宿り、文化は志から生まれる）
↓
- 子供観光の創造**

④ 目的

- 子供たちに夢を与え世界に通じる人格育成を目的とした子供観光の世界を創造する

⑤ 構図

- ミュージアムを核にミュージアムグッズの開発販売、子供観光、アニメ観光、ゆるキャラ観光、コスプレ観光などを開発し、総合的にアニメ観光都市を目指す。

⑥ 方法

- ミュージアム：「平和・環境・夢」をテーマにし、小樽に縁のある作家ミュージアム
- アニメグッズ：ミュージアムグッズとして商品開発
- ゆるキャラ：キャラクターの印税ビジネスを核に、様々なキャラクター土産を開発
- コスプレ小樽観光：小樽の街並みを背景とした物語性ある観光ルート商品の開発



小樽観光ビジョン⑤ アニメ都市小樽

⑦ 政治

【特区設置の働きかけ】

- 子供観光特区：子供の移動や観光に関する優遇措置（子供難民受け入れ特区）

⑧ 仕込

- ① 「平和・環境・夢」をテーマにし、小樽に縁のある作家ミュージアムの準備し、ゆるキャラやコスプレとの連携を模索する
- ② 市内ゆるキャラネットワーク
- ③ コスプレネットワーク

⑨ 具体例
(今すぐできること)

【子供集まれ！小樽アニメ・モニターツアー】

- ゆるキャラとコスプレ関連をコーディネートし、各観光コースに配置し、メッセージ発信とふれあい体験をする。
- 観光の解説は子供の視点に立ったわかりやすい内容に翻訳・アレンジし、ドリームを抱く教育効果を発揮する。最終的に参加者からの感想や意見を収集。
- 運がっば→平和の価値を伝える
- タルピー（石原裕次郎記念館）→内容のカッコヨさを伝える
- るたろう（ルタオ）→甘さは心の優しさに通じることを伝える
- ペン太（水族館）→アニマルセラピーや自然保護を伝える
- 商大くん（小樽商大）→教育がすべてに勝ることを伝える
- 小樽kawaiiティーパーティー（ヒーローの価値を伝える）
- 上記ゆるキャラやコスプレが堺町に現れ大切なことを子供たちに伝える
- 写真撮影、グッズ販売
- 5分間メッセージ（大切なことを伝える）仕込み要

小樽観光ビジョン⑤ アニメ都市小樽

タイトル	小樽に子供観光の世界を 観光案内アプリ 「かっぱでGO！」
------	-------------------------------------

- ・近年スマートフォン利用者が拡大し、観光地での情報収集減として大いに定着した。
- ・子供世代へもスマートフォンが普及しており、未就学児の時期から買いとる家庭も多い。
- ・家族旅行で訪れる歴史的な観光地においては、子供世代にどのように興味・関心をもってもらうかが課題となっている。
- ・日本が世界に誇るアニメ文化が世界的に浸透し、国内でもゆるキャラやコスプレのブームが起きている。
- ・近年ではスマートフォンアプリ「ポケモンGO」が現実世界と非現実世界の融合から話題を呼び社会現象となった。

ターゲット	外国人観光客 道内外観光客 小樽市民
属性	・子供連れの観光客 ・地域の教育施設の利用者 (保育園・幼稚園・小学校等)
実施者	アプリ開発を行っている地元の事業者 およびNPOとの連携
実施場所	小樽市内全域

●企画内容
小樽を代表する「小樽運河」から名付けられたかわいらしいゆるキャラ「運がっぱ」を活用したスマートフォンアプリを開発。指定された観光拠点でアプリを起動し、指定された場所にかざすと運がっぱが現れ、子供向けの解説を行ってくれる。

●イメージ



ゆるキャラそれぞれにテーマ性を持たせた展開に




●メリット

- ・子供にも優しい観光地として選ばれる観光地になる。
- ・観光客への訴求のみならず、ITへの対応が求められる教育現場でも水平展開ができる。
- ・スタンプラリーやポイント機能などアプリに多様なオプションを付加することにより、長きにわたって利用が可能。

1. 日本遺産を考える視点

- (1) 小樽の歴史の特徴は？
- (2) 日本の歴史文化における小樽の位置づけは？
- (3) どんな文化財がある？
- (4) 未指定文化財や歴史文化遺産は？
- (5) 伝承・習慣・芸術・教育等の無形への広がりは？

<札幌大学教授 川上淳>



2. 小樽の日本遺産候補

(1) 北前船

(2) 鯨

(3) 建築 (銀行街)



3. 小樽の歴史の特徴

近代史こそが小樽の歴史の特徴 ～ 鯨や北前船ビジネスのアレンジを土壌に～

- (1) 鉄道が敷設され蒸気機関車が走った
- (2) 商業資本集積によって港湾商業が発展した
- (3) 商業発展を物語る瀟洒な西洋型社屋や店舗が建築された

4. 近代化と高度経済成長

● 現在後進国の歴史的段階

近代化 + 高度経済成長が同時進行 → 公害やグローバルスタンダード頓挫

● 小樽の歴史的段階

近代化 → 成熟 → 高度経済成長 → 観光

「なんでもスクラップ & ビルドしてしまう経済成長でいいのか」

「遺産を生かすレガシー経済を選択した成熟型経済」



観光

1. 日本の歴史文化における「小樽の北前船」の位置づけ

① 基幹産業の移植

江戸時代→鯨粕などの資源を内地に運ぶ上り荷専用

明治時代→往復の利益を実現

売る方+買う方+基幹産業の礎づくり「三方よし」

→「港湾商業」なる基幹産業の礎づくりに貢献



② 遺産の活用

北前船 = 買い積み商法（寄港地ごとに仕入と販売）

過去を仕入れて未来を売る

過去：石造倉庫

未来：レガシー経済（ロケーション+コンテンツ）

③ 北前船の近代化

● 西洋型建築様式であるところの木骨石造倉庫

（小樽倉庫は専用倉庫業の嚆矢）

● 弁財船が蒸気船に進化した資本転換

（大家、広海の蒸気船転換）

2. 北前船文化財

- ① ほぼ100年以上経過した木骨石造倉庫
(小樽倉庫、大家倉庫、右近倉庫、広海倉庫、増田倉庫、中村倉庫)
- ② 木骨石造建築の波及 (木村倉庫、遠藤倉庫、叫児楼、アルバコールなど)
- ③ 引き札・船筆筒 (博物館所蔵)
- ④ 北陸系金融業の誘導 (第四十七銀行、中越銀行、北陸銀行)
- ⑤ 北陸系菓子業の誘導 (新倉屋、あまとう、杉本松月堂)
- ⑥ 北陸系銭湯業の誘導 (小町湯)
- ⑦ 民俗芸能の誘導 (高島越後踊り、潮太鼓)
- ⑧ 県人会の誘導 (石川県人会)



3. 「北前船」文化の無形等への広がり

- ① 木骨石造倉庫の伝承

商人の研ぎ澄まされた合理性

(道内産の木材を柱や梁に、小樽産軟石を壁に、北前船航海の重しを瓦屋根に)

- ② 北前船が残した習慣

(「進取の気性」をハイリスク覚悟で達成した見本)

③個別の文化性

【小樽倉庫】

- ・専用倉庫業の嚆矢
- ・企業秘密保持の中庭（有形）
- ・ランドマークのシャチホコ（有形）
- ・函館山は旧西出山（西出孫左衛門の元所有）
- ・遊興施設「千登勢」への資本投下
- ・損保業への資本転化
- ・山本久右衛門の住吉神社石燈籠（有形）

【広海・大家倉庫】

- ・御両家様の尊称（石川県瀬越町での私財を投じた公共事業）
- ・大聖寺藩主の墓との比較（有形 御両家の墓は遙かに大きい）
- ・住吉神社大鳥居（有形）
- ・損保業への資本転化

【右近倉庫】

- ・ミュージアム「北前船主の館・右近家」（有形）
- ・小樽の場所請負人西川家の船頭
- ・損保業への資本転化



4. 仕込み

絵本orパンフレット『三匹の子豚』をヒントに仮称『二匹のかっぱ』を創作
スクラップ&ビルド型経済とレガシー型経済を比べる
一気呵成型高度経済成長と熟成型経済成長を比べる

5. 今すぐできること

【小樽版「北前船」日本遺産モニターツアー】

① ツアーコース（15：00～20：00）

龍徳寺：金毘羅殿の船絵馬

住吉神社：大鳥居（大家・広海）、石燈籠（山本久右衛門）

田中酒造亀甲蔵：旧岡崎家倉庫を醸造所および販売店に再利用

中村倉庫：外観見学

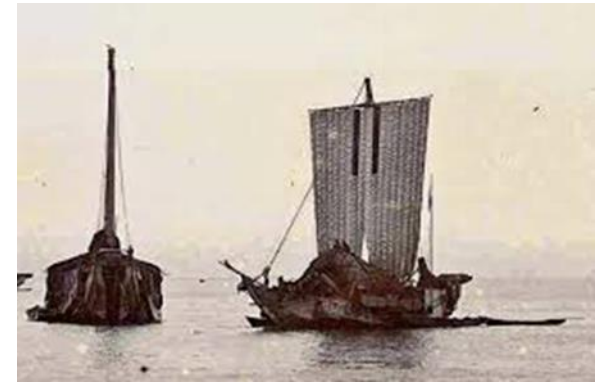
北一硝子三号館：旧木村倉庫をホール・カフェに再利用

小樽倉庫：中庭、シャチホコ、旧小樽倉庫をホール・カフェ・売店に再利用

博物運河館：模型、引き札、その他資料、旧小樽倉庫をミュージアムに再利用

大家倉庫・増田倉庫・広海倉庫・右近倉庫：概観見学

ゴールドストーン：旧渋澤倉庫をコンサートホール・カフェに再利用、見学と懇親会（意見収集）



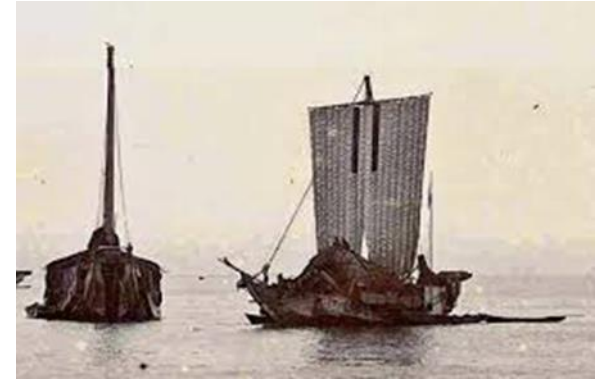
②ガイド&交通手段

龍徳寺～住吉神社～田中酒造亀甲蔵→タクシー（60分）

田中酒造亀甲蔵～ゴールドストーン→徒歩（120分）

③懇親会：交流を兼ねた懇親会（60分）

④モニタリング：日本遺産にする意義パンフレット解説補足とモニタリング（60分）



1. 日本の歴史文化における小樽の「鯨」の位置づけ

- 近代化に向けた外貨獲得に貢献

紙や繊維の製造（軽工業）の元になる植物の栽培を促進させた

- 鯨ビジネスの近代化

動力船、ウインチ、ケーブル

2. 鯨文化財

- ①銀鱗荘（明治6年築 昭和13年余市の猪股家番屋を移築 昭和30年全面改修）
- ②鯨御殿（明治30年築 昭和33年に泊の田中家番屋を移築）北海道指定有形文化財
- ③旧青山別邸（大正12年築）国登録有形文化財
- ④旧青山元場二番倉
- ⑤茨木家住宅
- ⑥旧白鳥番屋（明治10年代築）（元 群来陣）
- ⑦旧茨木家中出張番屋（明治後期築 平成22年復元）
- ⑧旧近江家番屋（明治初期築）



3. 「鯺」文化の無形等への広がり

① 忍路鯺(にしん)漁撈の行事（忍路鯺場の会） 市指定無形民俗文化財

② 水産加工品

塩数の子（三浦水産）、身欠鯺（カネ丁鍛冶）、鯺漬け（青塚食堂）、群来蕎麦（藪半）

③ 俗諺

「鯺は食う物ではなく着る物」「鯺は買う物ではなく拾う物」「ゴガッパ」

4. 今すぐできること

【小樽版「鯺」日本遺産モニターツアー】

① ツアーコース（15：00～19：00）

鯺御殿：館内観覧

旧近江家番屋・旧白鳥番屋：外観見学

旧青山元場二番倉：館内観覧

旧茨木家中出張番屋：館内観覧

茨木家住宅：外観見学

三浦水産：塩数の子製造見学

旧青山別邸：館内観覧・群来蕎麦懇親会（意見収集）・身欠鯺土産（カネ丁鍛冶）



②ガイド&交通手段

鯉御殿～近江・白鳥（60分）

青山～白鳥～茨木～三浦（90分）

旧青山別邸観覧（30分）

貴賓館 群来蕎麦懇親会（モニタリング）（60分）

③懇親会：交流を兼ねた懇親会（30分）

④モニタリング：日本遺産にする意義パンフレット解説補足とモニタリング（30分）



1. 日本の歴史文化における「小樽の銀行街」の位置づけ

大正11（1922）～13（1924）年→小樽市内には25行の銀行が存在

明治40年三井銀行会議→「神戸横濱に亞ギ」

↓

潇洒な社屋を建設→近代工法やデザインへの気遣い

↓

建物が現存していること自体が奇跡

世界の近代建築の歴史が凝縮



2. 銀行街文化財

●色内大通り沿線（9軒）

旧東京銀行（三立機電）、旧安田銀行（花ごころ）、旧第四十七銀行（渋谷建設）、旧三井銀行（ニトリ小樽芸術村）、旧北海道拓殖銀行（ホテルヴィブラント小樽）、旧第一銀行（トップジェント・ファッション・コア）、旧三菱銀行（小樽運河ターミナル）、旧百十三銀行（浪漫館）、旧第百十三国立銀行（海鳴楼）

●緑山手通り沿線（5軒）

旧泰北銀行（新宮商行）、旧日本銀行（金融資料館）、旧小樽地方貯金局（小樽市分庁舎）、旧三井物産（松田ビル）、旧北海道銀行（小樽バイン）

3. 「銀行街」文化の無形等への広がり

- 辰野金吾（1854～1919）：日本銀行本店、日本銀行小樽支店、東京駅
- 曾禰達蔵（1852～1937）：三井銀行小樽支店、（慶應義塾大学図書館）
- 中村達太郎（1860～1942）：第一銀行小樽支店
- 長野宇平治（1867～1937）：日本銀行小樽支店、北海道銀行本店
- 中條精一郎（1868～1936）：三井銀行小樽支店、千代田生命保険北海道支店
- 矢橋賢吉（1869～1927）：北海道拓殖銀行小樽支店、（国会議事堂）
- 田辺淳吉（1879～1926）：第一銀行小樽支店
- 岡田信一郎（1883～1932）：日本銀行小樽支店、（大阪市中央公会堂）
- 松井貴太郎（1883～1962）：三井物産小樽支店、（東京銀行集会所、三井銀行大阪支店）
- 小坂秀雄（1912～2000）：小樽地方貯金局竣工、（外務省、ホテルオークラ）



4. 今すぐできること

【小樽版「銀行街」日本遺産モニターツアー】

① コース（15：00～19：00）

古典（旧日本銀行）

↓旧泰北銀行、

ルネッサンス（旧北海道銀行、旧三井銀行）

↓旧百十三銀行、旧第百十三国立銀行

アールヌーボー（旧三井物産、旧第一銀行）

↓旧北海道拓殖銀行、旧三菱銀行、旧第四十七銀行、旧安田銀行、旧東京銀行

インターナショナルスタイル（旧貯金局）

↓

小樽バイン

②ガイド&交通手段：徒歩

③懇親会：交流を兼ねた懇親会（60分）

